

あいち病害虫情報 最新情報

平成 23 年 9 月 16 日
愛知県農業総合試験場
環境基盤研究部病害虫防除グループ

作物の病害虫

ダイズや水稻でミナミアオカメムシの発生量が多いほ場があります。ほ場間で発生量の差が大きいので、ほ場を見回り正確な発生状況の把握に努めてください。本種による被害は今後も続きますので、発生が多いほ場では防除しましょう。

トビイロウンカは、今年はこれまで県内の予察灯に誘殺されていません。

落葉果樹の病害虫

モモせん孔細菌病やナシ黒星病、ブドウべと病が多発しているほ場では、次作の伝染源を減らすため、秋季防除を徹底しましょう。

現在、フェロモントラップ及び予察灯におけるチャバネアオカメムシの誘殺数は少ない状況です。また、カキ園などへの飛来は、今のところほとんど見られません。しかし、豊富なヒノキ球果を餌にして山の中では発生量が増えてきていますので、ヒノキ林に近いカキ園などでは園内を観察し、飛来に注意しましょう。

ダイズ、野菜類、花き類のチョウ目害虫

台風12号の通過後、一部の地点でハスモンヨトウのフェロモントラップによる誘殺数が増えました。週間予報のとおり明日以降曇雨天が続けば、多発することなく終息に向かうと思われますが、卵塊や若齢幼虫が多く認められた場合は、幼虫の分散前に防除を実施しましょう。防除対策などについては、9月1日発表の「ハスモンヨトウ情報第2号」を参考にしてください。

ハイマダラノメイガによる被害がやや多い地域があります。育苗中や定植直後に食害されると被害が大きくなるので、防除に努めましょう。

コナガのほ場での発生量は、現在のところ平年並の状況です。

オオタバコガのフェロモントラップによる誘殺数は、平年並に推移しています。キクでは、頂芽部の奇形や花蕾に食入痕が見られる場合は早急に防除しましょう。キャベツでは、結球部に食入すると防除が困難になるので、若齢幼虫の発生を確認したら防除を実施しましょう。防除対策などについては、9月1日発表の「オオタバコガ情報第1号」を参考にしてください。

アブラナ科野菜の細菌性病害

軟腐病、黒斑細菌病、黒腐病など細菌性病害は、台風など風雨により発生が増加するので、登録のある薬剤で防除しましょう。排水の悪いほ場では発生しやすいので、排水対策を十分に行ってください。

イチゴ炭疽病、萎黄病

両病害とも気温が高いと発生が助長されるので、今後の発生に注意が必要です。発病苗や発病が疑われる苗は定植しないようにしましょう。また、本ほ場で発生を確認したら速やかにほ場から持ち出し適切に処分しましょう。

トマト黄化葉巻病に注意！

トマト黄化葉巻病の病原ウイルス（TYLCV）を媒介するタバココナジラミの発生が、一部の地域でやや多い状況です。トマト黄化葉巻病も発生しており、今後の感染拡大が懸念されます。タバココナジラミの早期防除、栽培施設内への侵入防止に努めるとともに、発病株は見つけ次第抜き取りましょう。

問い合わせ先 愛知県農業総合試験場 環境基盤研究部 病害虫防除グループ
TEL 0561-62-0085 FAX 0561-63-7820